

専門医が 診る

読者からの質問編

子どものてんかん

回答

広島大病院 てんかんセンター 石川暢恒副センター長



さまざまなタイプがある子どものてんかん（1月8日掲載）について、読者から寄せられた質問に、広島大病院てんかんセンター（広島市南区）の石川暢恒副センター長（46）に答えてもらった。（衣川圭）

20年以上症状ない

運転含め普通に生活を

Q 39歳の娘は5歳のころに数秒ほど意識が飛ぶ発作があり、薬を飲み始めました。服薬と脳波検査は12歳まで続けて主治医の指示でやめました。その後は症状はありません。治療

A 発作が出なくなると20年以上たっているのです。子ども

の時に発症したてんかんは治っていると考えられています。車の運転を含めて普通に生活しても大丈夫です。

子どもてんかんには、ある年齢でよく発症するものがあります。そのうち小児欠伸てんかん、ローランドてんかん、パネイトプラス症候群などは、その時期を過ぎるとたいは発作が起きなくなりますが、一般的に、医師が治つたという判断材料にするのは「よく発症する時期を過ぎて発作がなくなった」か、「最後の発作から10年以上経過し、薬をやめてから5年以上たった」の二つの場合です。

眠そうな動作 増える

ぼーっと見える発作も

Q 18歳の息子は知的障害があります。昨年、就労した作業所でけいれん発作が起きた。障害のためはつきりとした検査はできませんでした。それ以来、大きな発作はありません

A 18歳の息子は知的障害があるが、目をつぶって眠そうな動作が増えました。てんかんの人は日中、眠くなるようなことがあるのですか。

A てんかんの人が眠くなる一番の原因は薬の副作用です。発作の原因で夜に眠れていない場合や発作直後を除き、てんかんの人が病気の影響で眠くなることはありません。てんかんの発作は、けいれんしたり倒れたりするだけではありません。数十秒ほど意識がなくなると、ぼーっとしたように見える発作もあります。

明け方けいれん 理由は

睡眠の深さ・薬と関係か

Q 14歳の息子は10歳の時に初めけいれんがあり、いろいろな薬を試してきました。けいれんは明け方に起きることが多いのですが、理由がありますか。薬の内服をやめるのは難しいです

A 発作が起きやすいタイミングは人によって違いますし、てんかんの種類によっても異なります。寝ている時はかり

にある人もいれば、目が覚めている時にしかない人もいます。明け方にけいれんが多いのは、睡眠の深さとも関係があると考えられます。睡眠の浅い寝入りばなや、起きた直後に発作がよく起る傾向がみられます。何かに集中しているときには、あまり発作は起きないようです。明け方に発作があるもう一つの理由として、夜に飲んだ薬が切れてきている可能性もあります。薬の種類や量の調整で発作の回数を減らせるかもしれません。てんかん専門医か小児神経専門医に相談してください。

学校や塾に どう伝えれば

発作の種類と対応共有

Q 子どもの発作を起きにくくするために、薬を飲む以外に生活の中で気を付けることはありますか。学校や塾にはどのように伝えるべきですか。

A 睡眠不足や過度の疲労は、発作を起しやすいと言われています。薬をきっちり飲み、規則正しい生活を送りましょう。感染症も発作を引き

き起こす原因になります。インフルエンザなどのワクチン接種は原則、大丈夫です。主治医に確認して受けることを勧めます。ただ、一人一人注意すること違うので、まずは主治医の先生に相談してください。学校や塾には、発作の種類と対応を伝えるといいでしょう。情報共有しておく安心です。発作が治まっているのなら、あまり子どもの生活を制限せず、スポーツを含めていろいろな経験をさせてあげてほしいと思います。発作が時々ある場合、は溺れる恐れがあるプールや風呂、転落の恐れがあるジャンプシムなどの高い所に気を付けてください。